

事 務 連 絡  
平成25年9月12日

都道府県  
各 指定都市 児童福祉主管課保育担当者 殿  
中 核 市

厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課

「特定給食施設における栄養管理に関する指導・助言について」  
に係る情報提供について

平素より保育行政につきまして、格別の御配意を賜り厚く御礼申し上げます。

健康増進法においては、特定かつ多数の者に対して継続的に食事を供給する施設（1回100食以上又は1日250食以上）のうち栄養管理が必要なものについて特定給食施設と定められており、一部、保育所等の児童福祉施設が当該特定給食施設に該当しています。

この特定給食施設については、「特定給食施設における栄養管理に関する指導及び支援について」（平成25年3月29日健が発0329第3号厚生労働省健康局がん対策・健康増進課長通知。（別添1））の中で、平成25年度から開始している健康日本21（第二次）の推進に当たり都道府県等の衛生主管部局に対して特定給食施設における栄養管理に関する指導及び支援に係る留意事項が示されているところです。

また、地域における健康づくり及び栄養・食生活の改善を推進するに当たり、健康づくりや栄養・食生活の改善に取り組むための基本的な考え方を示した「地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善の基本指針について」（平成25年3月29日健が発0329第4号厚生労働省健康局がん対策・健康増進課長通知。（別添2））の中でも、各自治体が特定給食施設における栄養管理状況の把握及び評価に基づく指導・支援を行うよう記載されております。

加えて、「特定給食施設における栄養管理に関する指導・助言について」（平成25年9月3日事務連絡（別添3））において、「肥満並びにやせに該当する者の割合の評価方法について」が示されており、特定給食施設におかれましては、衛生主管部局より資料の作成に関わり、「身長別標準体重の早見表及び肥満度判定区分の簡易ソフト」を用いた協力を求められることもあるとのことです。

このため、各児童福祉主管課におかれましては、管内の特定給食施設である保育所等の児童福祉施設における栄養管理状況の把握及び評価に基づく指導・支援が適切に行われるよう関係部局等との連携や管内施設に対する周知等にご配意願います。

**【本件連絡先】**

厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課  
馬場・西田

電 話：03-5253-1111  
(内線 7919・7918)

F A X：03-3595-2674

健が発0329第3号  
平成25年3月29日

各 

都道府県
政令市
特別区

 衛生主管部（局）長 殿

厚生労働省健康局がん対策・健康増進課長

### 特定給食施設における栄養管理に関する指導及び支援について

特定給食施設の栄養管理に関しては、健康増進法（平成14年法律第103号。以下「法」という。）に基づき実施されているところである。

平成25年度から開始する健康日本21（第二次）の推進に当たり、特定給食施設における栄養管理に関する指導及び支援については、下記の事項に留意の上、対応方よろしくご配慮願いたい。

なお、特定給食施設の指導等に係る事務は、都道府県（政令市及び特別区を含む。以下同じ。）の自治事務（地方自治法第2条第8項）であり、本通知は、地方自治法第245条第1項の技術的助言であることを付言する。

また、本通知の施行に伴い、平成15年4月30日付け健習発第0430001号厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室長通知「健康増進法等の施行について（特定給食施設関係）」は廃止する。

### 記

#### 第1 特定給食施設に関する指導及び支援に係る留意事項について

- 1 現状分析に基づく効率的・効果的な指導及び支援について
  - (1) 管理栄養士又は栄養士の配置状況を分析し、未配置施設に対して効率的な指導計画を作成し、指導・支援を行うこと。
  - (2) 利用者の身体状況の変化などの分析により栄養管理上の課題が見られる施設に対して、課題解決に資する効果的な指導計画を作成し、指導・支援を行うこと。
  - (3) 病院及び介護老人保健施設については、管理栄養士がほぼ配置されていること、医学的な栄養管理が個々人に実施されていることから、個別指導の対象とするのではなく、必要に応じて、地域の医療等の質の向上を図る観点から専門職としての高度な技能の確保に向けた取組について、職能団体の協力が得られるよう調整を行うこと。

- (4) 事業所については、利用者に応じた食事の提供とともに、特定健診・特定保健指導等の実施もあわせ、利用者の身体状況の改善が図られるよう、指導・支援を行うこと。
- (5) 特定給食施設に対し、栄養管理の状況について報告を求める場合には、客観的に効果が評価できる主要な項目とすること。例えば、医学的な栄養管理を個々人に実施する施設に対し、給与栄養目標量や摂取量の平均的な数値の報告を求める必要性は乏しいこと。また、求めた報告については、的確に評価を行い、管内施設全体の栄養管理状況の実態やその改善状況として取りまとめを行い、関係機関や関係者と共有する体制の確保に努めること。
- (6) 栄養改善の効果を挙げている好事例を収集し、他の特定給食施設へ情報提供するなど、効果的な実践につながる仕組みづくりに努めること。

## 2 特定給食施設における栄養管理の評価と指導計画の改善について

- (1) 管理栄養士又は栄養士の配置状況、利用者の身体状況の変化など栄養管理の状況について、評価を行うこと。
- (2) 施設の種類によって管理栄養士等の配置率が異なることから、施設の種類別に評価を行うなど、課題が明確となるような分析を行うこと。なお、学校への指導については、教育委員会を通じて行うこと。
- (3) 評価結果に基づき、課題解決が効率的・効果的に行われるよう、指導計画の改善を図ること。
- (4) 評価結果を改善に生かすために、栄養管理上の課題が見られる場合には、施設長に対し、課題解決への取組を促すこと。また、栄養管理を担う職員について、専門職としての基本的な技能の確保を図る必要がある場合には、職能団体の協力が得られるよう調整を行うこと。

## 3 その他、指導及び支援に係る留意事項について

- (1) 健康危機管理対策の一環として、災害等に備え、特定給食施設が担う役割を整理し、施設内及び施設間の協力体制の整備に努めること。
- (2) 特定給食施設以外の給食施設に対する指導及び支援に関しては、地域全体の健康増進への効果の程度を勘案し、より効率的・効果的に行うこと。

## 第2 特定給食施設が行う栄養管理に係る留意事項について

### 1 身体の状態、栄養状態等の把握、食事の提供、品質管理及び評価について

- (1) 利用者の性、年齢、身体の状態、食事の摂取状況及び生活状況等を定期的に把握すること。
- (2) (1)で把握した情報に基づき給与栄養量の目標を設定し、食事の提供に関する計画を作成すること。
- (3) (2)で作成した計画に基づき、食材料の調達、調理及び提供を行うこと。
- (4) (3)で提供した食事の摂取状況を定期的に把握するとともに、身体状況

の変化を把握するなどし、これらの総合的な評価を行い、その結果に基づき、食事計画の改善を図ること。

## 2 提供する食事（給食）の献立について

(1) 給食の献立は、利用者の身体の状態、日常の食事の摂取量に占める給食の割合、嗜好等に配慮するとともに、料理の組合せや食品の組合せにも配慮して作成するよう努めること。

(2) 複数献立や選択食(カフェテリア方式)のように、利用者の自主性により料理の選択が行われる場合には、モデル的な料理の組合せを提示するよう努めること。

## 3 栄養に関する情報の提供について

(1) 利用者に対し献立表の掲示や熱量、たんぱく質、脂質及び食塩等の主要栄養成分の表示を行うなど、健康や栄養に関する情報の提供を行うこと。

(2) 給食は、利用者が正しい食習慣を身に付け、より健康的な生活を送るために必要な知識を習得する良い機会であり、各々の施設に応じ利用者等に各種の媒体を活用するなどにより知識の普及に努めること。

## 4 書類の整備について

(1) 献立表など食事計画に関する書類とともに、利用者の身体状況など栄養管理の評価に必要な情報について適正に管理すること。

(2) 委託契約を交わしている場合は、委託契約の内容が確認できるよう委託契約書等を備えること。

## 5 衛生管理について

給食の運営は、衛生的かつ安全に行われること。具体的には、食品衛生法（昭和22年法律第233号）、「大規模食中毒対策等について」（平成9年3月24日付け衛食第85号生活衛生局長通知）の別添「大量調理施設衛生管理マニュアル」その他関係法令等の定めるところによること。

## 6 災害等の備えについて

災害等に備え、食糧の備蓄や対応方法の整理など、体制の整備に努めること。

## 第3 健康日本21（第二次）の個別目標の評価基準に係る留意事項について

健康日本21（第二次）の目標である「利用者に応じた食事の計画、調理及び栄養の評価、改善を実施している特定給食施設の割合の増加」に関する評価については、下記の基準を用いて行うこと。

- (1) 「管理栄養士又は栄養士」の配置状況（配置されていること）
- (2) 「肥満及びやせに該当する者の割合」の変化の状況（前年度の割合に対して、増加していないこと）。なお、医学的な栄養管理を個々人に実施する施設は、対象としないこと。

#### 第4 管理栄養士を置かなければならない特定給食施設の指定について

##### 法第21条第1項の指定の対象施設について

法第21条第1項の規定により管理栄養士を置かなければならない特定給食施設として、健康増進法施行規則（平成15年厚生労働省令第86号。以下「規則」という。）第7条に、

- ・医学的な管理を必要とする者に食事を提供する特定給食施設であって、継続的に1回300食以上又は1日750食以上の食事を供給するもの（第7条第1号）
- ・それ以外の、管理栄養士による特別な栄養管理を必要とする特定給食施設であって、継続的に1回500食以上又は1日1500食以上の食事を供給するもの（第7条第2号）

が規定されたが、これらの施設を指定する場合の運用の留意点は以下のとおりである。

##### 1 規則第7条第1号の指定の対象施設（一号施設）について

- (1) 規則第7条第1号に掲げる特定給食施設（以下「一号施設」という。）とは、病院又は介護老人保健施設に設置される特定給食施設であって1回300食以上又は1日750食以上の食事を供給するものをいうこと。
- (2) なお、一号施設は、許可病床数300床以上の病院又は入所定員300人以上の介護老人保健施設に設置されている特定給食施設（法第21条第1項の指定の対象施設となる特定給食施設が病院及び介護老人保健施設並びにこれら以外のものを対象として食事を供給する場合（病院及び介護老人保健施設のみを対象として食事を供給する場合を含む。）には、当該特定給食施設が給食の対象とする病院許可病床数及び介護老人保健施設の入所定員の合計が300以上とする。）をいうこと。

##### 2 規則第7条第2号の指定の対象施設（二号施設）について

- (1) 規則第7条第2号に掲げる特定給食施設（以下「二号施設」という。）とは、
  - ・生活保護法第38条に規定する教護施設及び更生施設
  - ・老人福祉法第5条の3に規定する養護老人ホーム、特別養護老人ホーム及び軽費老人ホーム
  - ・児童福祉法第37条に規定する乳児院、同法第41条に規定する児童養護施設、同法第42条第1号に規定する福祉型障害児入所施設、同法第43条の2に規定する情緒障害児短期治療施設、同法第44

条に規定する児童自立支援施設

- ・独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園法第11条第1項の規定により設置する施設
- ・障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第5条第12項に規定する障害者支援施設
- ・事業所、寄宿舍、矯正施設、自衛隊等（以下「事業所等」という。）であって、1回500食以上又は1日1500食以上の食事を供給するものをいうこと。

- (2) 法第21条第1項の指定の対象施設となる特定給食施設が一号施設及び二号施設又は複数の二号施設を対象として食事を供給する場合には、1(2)に該当する場合を除き、これらの施設に供給する食事数の合計が1回500食以上又は1日1500食以上である場合には、二号施設とみなされること。

この場合、病院又は介護老人保健施設に対し1回に供給する食事数については、許可病床数又は入所定員数（1日に供給する食事数については、許可病床数又は入所定員数の3倍の数）とみなして取り扱うものとする。

- (3) 一号施設及び二号施設以外のものをも対象として食事を供給する特定給食施設にあつては、1(2)に該当する場合を除き、一号施設及び二号施設に供給する食事数が1回500食以上又は1日1500食以上である場合には、二号施設とみなされること。

この場合、病院及び介護老人保健施設に対し供給する食事数の算定の方法については、(2)の後段で示した取扱いに準じて取り扱うこと。

### 3 その他社会福祉施設等に食事を供給する特定給食施設について

- (1) 法第21条第1項の指定の対象施設となる特定給食施設が法令等により栄養士を必置とされている複数の社会福祉施設及び児童福祉施設（以下「社会福祉施設等」という。）に限り食事を供給するものにあつては、それぞれの社会福祉施設等に配置されている栄養士が各施設において栄養業務を行っていることに鑑み、法第21条第1項の指定の対象施設となる社会福祉施設等に供給される食事数が1回500食以上又は1日1500食以上となるものがある場合には、二号施設とみなされること。

- (2) 事業所等に対し食事を供給する特定給食施設にあつては、当該給食施設により事業所等に供給される食事が主として事業所等に勤務又は居住する者により喫食され、かつ、事業所等で勤務又は居住する者の概ね8割以上が当該給食施設で供給する食事を喫食するものであつて1回500食以上又は1日1500食以上供給する場合、二号施設とみなされること。

健が発0329第4号  
平成25年3月29日

各 { 都道府県  
保健所設置市  
特別区 } 衛生主管部（局）長 殿

厚生労働省健康局がん対策・健康増進課長

地域における行政栄養士による健康づくり及び  
栄養・食生活の改善の基本指針について

平成25年度から開始する健康日本21（第二次）の推進に当たり、行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善の一層の推進が図られるよう、「地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善について」（平成25年3月29日付け健発0329第9号）が、健康局長から通知されたところであるが、更に別紙のとおり「地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善の基本指針」を定めたので、御了知の上、この基本指針に基づき行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善に関する施策の充実及び推進を図られたい。各都道府県においては、管内市町村（保健所設置市及び特別区を除く。）等に周知を図るとともに、その円滑な実施について遺憾なきようご指導願いたい。

また、本通知は地方自治法（昭和22年法律第67号）第245条の4に基づく技術的助言であること、更には、基本指針の理解を深めるため、別途参考資料を作成し送付する予定であることを申し添える。

なお、この通知の施行をもって「地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善の基本指針について」（平成20年10月10日付け健習発第1010001号）は廃止する。

事務連絡  
平成 25 年 9 月 3 日

各 { 都 道 府 県  
保健所設置市  
特別区 } 衛生主管部（局）御中

厚生労働省健康局  
がん対策・健康増進課  
栄養指導室

#### 特定給食施設における栄養管理に関する指導・助言について

特定給食施設の栄養管理に関しては、健康増進法に基づき実施されているところ です。

平成 25 年度から開始している健康日本 21（第二次）の推進にあたり、特定給食施設における栄養管理に関する指導及び支援については、平成 25 年 3 月 29 日付け厚生労働省健康局がん対策・健康増進課長通知「特定給食施設における栄養管理に関する指導及び支援について」において、留意事項をお示したところ です。

健康日本 21（第二次）の目標の一つである「利用者に応じた食事の計画、調理及び栄養の評価、改善を実施している特定給食施設の割合の増加」に関する評価方法に関連して、今後衛生行政報告例を改正予定ですので、事前にお知らせ します。

#### 記

##### 1 「管理栄養士又は栄養士」の配置状況について

管理栄養士又は栄養士の配置状況については、従前のとおり、衛生行政報告例の「第 12 給食施設」において報告していただきます。

しばらくの間、引き続き常勤の配置率の向上を目指していくこととなるため、常勤の数の報告とします。



2 「肥満並びにやせに該当する者の割合が増加している施設」に対する指導・助言について

(1) 衛生行政報告例の「第13 特定給食施設に対する指導・監督」において報告いただいている指定施設における「指導・助言件数」の「栄養管理」及び指定施設以外の特定給食施設における「指導・助言件数」に該当するものについては、各自治体の判断にゆだねられているところです。

平成27年度の衛生行政報告例の記入要領を変更し、健康増進法第21条第3項に規定する適切な栄養管理の実施に関して、健康増進を目的とした施設のうち、肥満並びにやせに該当する者の割合が増加している施設に対して、該当するすべての施設に指導・助言を行い、その件数を計上していただくこととなります。

(2) 肥満並びにやせに該当する者の割合が増加している施設とは、平成26年度の肥満並びにやせに該当する者の割合を基準として、この基準（平成26年度の結果）と比較し、肥満並びにやせに該当する者の割合が5%以上増加している施設とします。平成27年度以降、健康日本21（第二次）の中間評価までの間、平成27年度結果と基準年度である平成26年度、平成28年度結果と平成26年度といったように比較を行うこととなります。

(3) 肥満並びにやせに該当する者の割合の評価方法については、別添に示した方法を参照してください。

(別添)

## 肥満並びにやせに該当する者の割合の評価方法について

肥満並びにやせの評価方法については、BMIをはじめ、複数の方法が存在しています。特に、小児における肥満度を用いた評価の方法については、わが国においては、肥満度算出のために用いる標準体重の算出方法に複数の方法が存在することに留意が必要です<sup>1)</sup>。

### 1. 成人の肥満並びにやせに該当する者の割合の評価方法

○BMI (Body Mass Index 次式)を用います。

○男女とも20歳以上BMI=22を標準とし、肥満の判定基準は、下記の通りとします。

$$\text{BMI} = \text{体重 kg} / (\text{身長 m})^2$$

判定	低体重(やせ)	普通	肥満
BMI	18.5未満	18.5以上25.0未満	25.0以上

(日本肥満学会(2000年)による肥満の判定基準)

### 2. 小児の肥満並びにやせに該当する者の割合の評価方法

#### (1) 幼児

○3歳以上6歳未満の幼児を対象に、幼児身長体重曲線(性別・身長別標準体重)を用いた評価方法<sup>2-4)</sup>とします。

○肥満度の判定区分のうち、「肥満」については、+15%以上、「やせ」については、-15%以下を評価対象とします。

幼児身長体重曲線(性別・身長別標準体重)による肥満度の評価方法については、平成12年乳幼児身体発育調査の結果に基づき作成されています。

集団の長期的評価や医学的な判定においては、関係学会の見解<sup>1)</sup>等に基づき、平成12年乳幼児身体発育調査の結果に基づく値を用い、母子健康手帳においては、直近の調査にもとづく乳幼児の現況を示すものであることから、平成22年乳幼児身体発育調査の結果に基づく値が用いられています<sup>2,5)</sup>。

これらを踏まえ、本評価においては、集団の長期的評価を行う観点から、平成12年乳幼児身体発育調査の結果に基づき作成されたものを用いることとしますが、保護者が使用している母子健康手帳に掲載されている幼児身長体重曲線と同様のものを用いて評価をしたい場合には、平成22年乳幼児身体発育調査の結果に基づき作成されたものを用いても差し支えないこととします。

なお、身長別標準体重の早見表及び肥満度判定区分の簡易ソフトについては、平成25年度中に配布予定です。

$$\text{肥満度} = \left[ \text{実測体重 (kg)} - \text{身長別標準体重 (kg)} \right] / \text{身長別標準体重 (kg)} \times 100 (\%)$$

区分	呼称
+30%以上	ふとりすぎ
+20%以上+30%未満	ややふとりすぎ
+15%以上+20%未満	ふとりぎみ
-15%超+15%未満	ふつう
-20%超-15%以下	やせ
-20%以下	やせすぎ

【平成12年乳幼児身体発育調査の結果に基づく身長別標準体重の算出式】

- 男児 標準体重 =  $0.00206 \times \text{身長}^2 - 0.1166 \times \text{身長} + 6.5273$
- 女児 標準体重 =  $0.00249 \times \text{身長}^2 - 0.1858 \times \text{身長} + 9.0360$

【平成22年乳幼児身体発育調査の結果に基づく身長別標準体重の算出式】

- 男児 標準体重 =  $0.002226 \times \text{身長}^2 - 0.1471 \times \text{身長} + 7.8033$
- 女児 標準体重 =  $0.002091 \times \text{身長}^2 - 0.1139 \times \text{身長} + 5.7453$

(2) 児童・生徒

○学校保健統計調査方式（性別・年齢別・身長別標準体重）<sup>6,7)</sup>による肥満度判定方法を用います。

○以下の区分のうち、「肥満」については、+20%以上、「やせ」については、-20%以下を評価対象とします。

$$\text{肥満度 (過体重度)} = \left[ \text{実測体重 (kg)} - \text{身長別標準体重 (kg)} \right] / \text{身長別標準体重 (kg)} \times 100 (\%)$$

	やせ傾向		普通	肥満傾向		
	-20%以下			20%以上		
判定	高度やせ	軽度やせ		軽度肥満	中等度肥満	高度肥満
肥満度	-30%以下	-30%超 -20%以下	-20%超~ +20%未満	20%以上 30%未満	30%以上 50%未満	50%以上

$$\text{身長別標準体重 (kg)} = a \times \text{実測身長 (cm)} - b$$

年齢	男		女	
	a	b	a	b
5	0.386	23.699	0.377	22.750
6	0.461	32.382	0.458	32.079
7	0.513	38.878	0.508	38.367
8	0.592	48.804	0.561	45.006
9	0.687	61.390	0.652	56.992
10	0.752	70.461	0.730	68.091
11	0.782	75.106	0.803	78.846
12	0.783	75.642	0.796	76.934
13	0.815	81.348	0.655	54.234
14	0.832	83.695	0.594	43.264
15	0.766	70.989	0.560	37.002
16	0.656	51.822	0.578	39.057
17	0.672	53.642	0.598	42.339

出典：財団法人日本学校保健会『児童生徒の健康診断マニュアル（改訂版）』平成18年

※日本小児内分泌学会、日本成長学会により、早見表や計算ソフトが公表されています<sup>8)</sup>。

## 参考資料

- 1) 日本小児内分泌学会・日本成長学会合同標準値委員会. 日本人の小児の体格の評価に関する基本的な考え方  
[http://jspe.umin.jp/pdf/takikaku\\_hyoka.pdf](http://jspe.umin.jp/pdf/takikaku_hyoka.pdf)  
(資料) 2000年日本人小児の体格標準値  
[http://jspe.umin.jp/pdf/2000taikaku\\_hyoka2.pdf](http://jspe.umin.jp/pdf/2000taikaku_hyoka2.pdf)
- 2) 乳幼児身体発育評価マニュアル. 平成23年度厚生労働科学研究費補助金「乳幼児身体発育調査の統計学的解析とその手法及び利活用に関する研究」平成24年3月  
<http://www.niph.go.jp/soshiki/07shougai/hatsuiku/index.files/katsuyou.pdf>
- 3) 厚生労働省. 平成12年乳幼児身体発育調査報告書  
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/0110/h1024-4.html>
- 4) 厚生労働省. 平成22年乳幼児身体発育調査報告書  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001t3so-att/2r9852000001t7dg.pdf>
- 5) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課. 乳幼児の身体発育評価について(事務連絡). 平成24年5月21日
- 6) 文部科学省. 学校保健統計調査-平成24年度(確定値)結果の概要  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa05/hoken/kekka/k\\_detail/1331751.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa05/hoken/kekka/k_detail/1331751.htm)
- 7) 財団法人日本学校保健会. 児童生徒の健康診断マニュアル(改訂版). 平成18年
- 8) 日本小児内分泌学会ホームページ <http://jspe.umin.jp/>  
日本成長学会ホームページ <http://www.auxology.jp/>